

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和2年2月10日

事業所名 放課後スクールいつざいや

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			50.69㎡のスペースに対し、定員は10名なので、十分なスペースは確保されている
	2	職員の配置数は適切である	○			通所児童平均10.0/日に対し、社員(児発管管)2.8/日、スタッフ6.5/日
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている		○		一般住宅を駆使して「日常生活対応型教育」が主訴の為
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			学生スタッフの殆どが十分な時間を経て、児童への対応にも細部に渡り共有できている。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		○		年に一度は保護者向けアンケートを実施しているが、今後は回数を増やして業務改善につなげたい。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			兵庫県のホームページと当社のホームページにて公開。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○			評価による改善項目を速やかに改善。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			日々の療育後のミーティング及び外部研修への参加。今後は集合型の研修を実施。
適切 な 支 援 の 提 供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			代表者、スタッフを含めて保護者との面談を実施し、各児童に応じた対応を実施。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		医師による「療育診断」に依存している。その他連携の小児科医の助言のみ。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			各児童に応じた学習指導内容を全員で共有し、実施している。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			学習支援(特に宿題)に加え、専門教諭を招いて英語のレッスンを週2回実施。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○			学校の課題を最優先し、残った時間でその他の課題を実施。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○			大きなテーブルを囲んで集団の中で学習支援を行っているが、カリキュラム等は個別に計画を立て、対応している。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			通所児童の出欠を前日までに90%は把握しているので、前回の療育の引継ぎと併せ実施。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			全療育終了後15分程度に加え、週2回程度約120分、主力学生スタッフらとミーティング実施。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			前記⑮と同様
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○			代表者が保護者間、スタッフ間で、その都度話し合い、見直しを実施。

	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	○			ガイドラインを購入し、不明な箇所は法人指導課の担当者にヒアリングし、理解に努めている。
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			児発管、常駐の児童指導員と常駐率85%の法人代表で参加。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○			原則的に当該児童の担任、教頭、校長、コーディネーターと面談も含め、詳細把握。行事見学にも積極的に参加。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○			医療的ケアの必要な1名の児童(10名中)に対し、保護者を通じて詳細なヒアリングを実施。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			就学前に通所していた児童デイサービスと保護者とのヒアリング。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		該当者がなく、未経験。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			西宮市こども未来センター、西児連園を中心に、研修や講演会には法人代表を含め多数参加。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○			最寄りの小学校(甲東小)に関しては、学校連携も含め、施設提供も実施。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○			情報入手した機会に関しては90%以上参加。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			個別面談に加え、保護者の送迎時(送迎なしの為)に毎回必須で実施。 Line窓口で、常時交流は可能。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		保護者との面談は十分に行っているが、当方がペアトレのスキルを持ち合わせていない。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			契約時、3種類の書類での説明はしているが、保護者の理解度は不明。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			特に地域の「社会福祉協議会(甲東分区他)」等の紹介、心理カウンセラーとの面談等実施。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○			似たような境遇の保護者同士の意見交換は、個人的に実施。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			保護者との面談にて対応。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			SNS(Facebook)での紹介、保護者への手紙にて発信。
	35	個人情報に十分注意している	○			療育スペースから離れた別室に保管。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			各研修で習い、実践している。

	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			自治会、社協、青愛協等、随時ご参加頂いています。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			マニュアルは作成しているが、保護者への周知徹底は不十分。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			避難経路をスタッフに熟知してもらい、定期的に避難訓練を実施。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			定期的に研修を実施。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○		身体拘束を行う必要のある児童が皆無なため、実施していない。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		胃ろうの児童が1名。 食物アレルギー児童は1名。(おやつは配慮)
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			些細なことも、児発管が毎日記録している。

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和2年2月10日

事業所名 放課後スクールいつざいや

保護者等数(児童数)

回収数 15

割合 50 %

		チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
			はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	13	2				
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	11	4			多くの先生に教えてもらえて有難いです。	
	3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	1	9	5		玄関まで階段なので、スロープを作って欲しい。	大改修工事が必要になるため、不可能。
適切な 支援の 提供	4	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画*1が作成されているか	13	2				
	5	活動プログラム*2が固定化しないよう工夫されているか	11	4			宿題以外の課題を本人がやりたがらないので、楽しくやれるプログラムを作って欲しい	
	6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	9	3	3			
保護者 への 説明等	7	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	14	1				
	8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	11	4			問題があったときは、素早く話し合いの機会を設けてくれ、解決に向け色々な話ができます。	
	9	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	13	2			話をよく聞いてもらい、押し付けでない的確なアドバイスがもらえます。	
	10	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	1	8	6			
	11	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	11	4				
	12	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	14	1				
	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	10	5			よくブログを見せてもらっています。	定期的にSNSで、発信しています。
非常時 等の 対応	14	個人情報に十分注意しているか	14	1				
	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	6	8	1			
満足 度	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	4	11				
	17	子どもは通所を楽しみにしているか	11	4			とても楽しみにしています。	
	18	事業所の支援に満足しているか	14	1			とても楽しみにしています。	

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日/休日/長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。